

大阪府立茨木高等学校 学校運営協議会 令和5年度委員等

委員

添田 晴雄（会長）
岩井 八郎（副会長）
柴田 仁
中村 卓
樫本 佳子
武田 和代

校長及び事務局員

高江洲 良昌（校長）
朝倉 淳（教頭）
藤山 恵里（事務長）
森 登紀子（首席）
森 佳希（首席）
林 幸広（教務主任）
長田 大樹（進路指導主事）
市田 友宏（生徒指導主事）

令和5年度 第1回学校運営協議会議事録

日時：令和5年6月10日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、武田和代

【校長・事務局】 高江洲良昌、朝倉淳、藤山恵里、森登紀子、森佳希
林幸広、長田大樹、（市田友宏 ※他の校務により欠席）

1. 校長挨拶
2. 委員紹介・事務局職員紹介
3. 議事
 - ① 本年度の「学校経営計画及び学校評価」について
 - ② 教科書選定について
 - ③ その他
 - ④ 次回運営協議会日程

<校長挨拶>

- ・4月からここまでの学校の様子を報告。さらに、今年度のこれからの行事や取組みについて、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策の5類への移行を踏まえ、早く通常どおりの教育活動を実施していきたい、との展望を説明。

<委員紹介・事務局職員紹介>

・順に、自己紹介

<事務局からの「議事」に係る説明>

①本年度の「学校経営計画及び学校評価」について

*校長より、今年度の重点目標、具体的な取組み計画・内容等について「学校経営計画」に沿って説明。

委員：「高い志」を保ち続けられている理由はどのようなところにあるか。

事務局：繰り返しになるが、進路に関しては第1志望を貫くことの重要性を伝え続けていることだと考える。

事務局：課題研究や探究活動、生徒主体の行事等、いわゆる受験勉強以外の多様な取組みが多数あり、それらを通じて高い志が育っている。

事務局：生徒たちは3年生の行事や部活動の引退後に急激に成長する。それまでの様々な取組みがその土壌を形成している。また、過去の先輩たちのそのような姿を後輩たちは見ているので、茨木高校の取組みを信じていれば結果は自ずとついてくるという意識はある。

委員：「北辰プロジェクト」が高いレベルで維持されていると理解した。

委員：コロナ禍前の社会に戻りつつあり、国際交流も含め当時のようなつながりが復活することを願っている。

→今年度の「学校経営計画」の「今年度の重点目標」及び「具体的な取組計画・内容」について承認。

*令和4年度(昨年度)の取組みをまとめた資料をもとに、昨年度第3回の学校運営協議会以降に実施した取組み等について、事務局より説明。

*今春の進路状況について

委員：自身の子どもが通っていた頃は「茨木高校は4年生」という意識があり、浪人が当たり前だった。現在は学校も生徒・保護者も現役志向が高まっているようにも思うが、茨木高校もそうなのか。

事務局：本校では一貫して「行きたい大学に向け（浪人してでも）頑張ろう」と伝えている。一方で、調査したわけではないが、現役志向が高まっているように感じている。予備校が生徒・保護者に対して私立大学も多く受けるように指導しているようで、その影響が大きいのではないかと考える。全国的にも浪人生は減っている。そのような中、茨木高校は浪人してでも第1志望を貫く生徒が多いと言われている。

事務局：新学習指導要領になったことを受け、現2年生からカリキュラムが変更されていることも、現役志向を強めている要因になっていると思われる。

②教科書選定について

現在（6月10日現在）、各教科で次年度の教科書を選定中であり、次回、第2回の学校運営協議会の際に、選定した教科書をご覧いただく予定である。

③その他

*学校の働き方改革について

委員：教員の働き方改革は進んでいるか。

事務局：府教育庁からは具体的な項目を挙げ、強い指示が来ている。前述のような多様な取組みを維持しつつ働き方改革を進めるのは容易ではないが、Google フォームの活用や勤務時間外の電話の自動応答の導入等、取組みを進めている。一斉定時退庁日についても、教職員の協力のもと、良いスタートが切れている。

委員：働き方改革はグローバルな視点で考えることが大切で、日本の取組みはまだまだ遅れており、着実に進める必要がある。業務を整理することで、生徒と向き合う時間も確保できるし、教員が個人の時間を確保できることも大切である。民間企業ではジョブ型の評価が叫ばれている。人として、社会人としてあるべき姿の見本を生徒に示すという意味でも働き方改革を進めることは重要。

委員：働き方改革が府庁からの強い指示とのことだが、通知や調査は減っているのか。

事務局：回答方法が紙ではなく、メールや専用システム、Google フォームになっていることで、回答方法の負担は減っているが、通知等の量が減っている実感はない。

事務局：例えば、生徒の進路実績については、よく似た情報を色々な部署から聞かれる。何に使うか目的も示されるが、一本化されるとありがたい。

委員：通知や調査を減らすよう、学校が集まって要望するのもよいのではないか。

委員：大学もどうようで、ほとんど読まれないような調査に付き合わされている。国の縦割り行政の弊害。

委員：世の中や政策の決定がエビデンスベースになってしまっていることも原因であると考えられる。数字や事実も大切だが、それに囚われすぎると、非常に効率が落ちるということも研究で出てきている。

委員：国から都道府県、都道府県から市町村と通知が流れて来る中で、枝葉がつき業務量が増える。そんな中、とにかく勤務時間が終われば帰るという姿勢は非常に大切で、残ってやってしまうのではなく、帰ることでその業務はできないということを伝える。

委員：ICT機器の端末活用状況がそれほど高くないが、何か理由があるのか。

事務局：生徒向けのICT機器の導入が遅れているわけではなく、あえて使っていない教科もある。

委員：府に対して事務的、ハード的な要望はすべきであろう。社会全体でペーパーレス化が進んでいる中、職員会議等もっとやりようがあると思われる。

委員：教員向けの端末は導入配備されているのか。

事務局：教員向けの一人一台端末は有線を使い勝手もよくない。Chromebook は教員には配備されておらず、職員会議資料は紙で配付せざると得ない。個人の端末に頼らざるを得ない現状はあるが、何とか電子化を進めていきたい。

事務局：久敬会の Wi-Fi は大変助かっている。

委員：本来、府が負担し、整備することであるが要望等があれば言っていただきたい。

*スクールミッション、スクールポリシーについて

委員：スクールミッションとスクールポリシーの設定はどうか。

事務局：茨木高校にマッチしたあり方を模索し、丁寧に進めているところ。

委員：エルハイスクールで先取りしたようなこともあったと記憶する。ぜひ後追いではなく先取りを。

④次回学校運営協議会の日程

第2回学校運営協議会 令和5年10月7日（土） 14：00～